

夢湧き夢に夢中

第18号

令和8年3月24日 文責：大谷

“夢我夢中”

「むがむちゅう」という四字熟語の意味を調べてみた。「あるものごとに心を奪われて、自分の現在の状態を忘れること。またそのさま。」とある。そして、その意味を表すように漢字ではこう書く。もう承知のことと思うが改めて。「無我夢中」である。

桜の花が咲き始めるこの季節になると、入学式や次の学年への進級など身の回りの新たな変化に何かとわくわく、ドキドキさせられる。実に心地よい季節だ。そのようなか、本日、令和七年度の修了式を迎えられた。まずは、今日までの一年間、生徒の皆さんと先生方が健康で無事に今日という日を迎えられたことに心から感謝したい。本当にありがとうございます。

そこで、南阿蘇中学校のこの一年をひと言で表せないものか、と考えた。「夢が湧き、夢を叶えることに夢中になれる生徒の育成」という学校教育目標を掲げて二年おかげさまで様々な場面で「夢」というワードを耳にする機会が増えた。特に生徒の皆さんから発せられる「夢」という言葉には、わたしたち大人以上のエネルギーがあり、この一年もそんなエネルギー波に背中をグイグイ押しされてきたことを実感する。今、自分がこうして穏やかな心持ちでこの原稿を書いていられるのも、皆さんのお陰だと、しみじみ…。

「あれ、変換ミスでもしたか。もしくは校長先生の勘違いか？」冒頭の見出しを見て、そんな違和感を抱いた人

も少なくないだろう。しかし、わたしは令和七年度を表すひと言を考えた末に、あえてこう漢字変換した。「私の夢を叶えることに夢中になる」生徒が、今年も南阿蘇中学校にたくさん現れたからだ。

二年生が十一月に人権学習に取り組んだ。授業の中で担任の先生が語る言葉を真剣に聴く表情と、その後担任の先生に返す言葉の温かさが実に豊かで、傍らで参観していたわたし自身の心をも解き放ってくれたことを思い出す。こんな営みこそが、自分の夢を語ったり、仲間との夢に共感したりしながら、ともに夢を叶え合っていくのだと思った。二年生は、いよいよ三年生になる。まさに我が夢への挑戦の年である。これからも仲間と豊かにつながり、とことん夢を語り合い、そしてともに夢を叶えることに夢中になってほしい。

一年生は今年度初めて起業体験学習に取り組んだ。地元のパン屋さんやレストラン、カフェ店のご協力のもと会社を起し、投資家説明会や商品の企画、試作、販売、経理及び株主総会での決算報告等一連の会社経営について模擬体験することができた。これはまさに将来の夢の実現に向けて「逆算」しながら学ぶことができる体験学習であり、もはやじっと待っているだけの学びでは物足りないと感じたのではないだろうか。次年度は、この学びにさらにナアルファして、地域をより一層盛り上げてくれることを期待したい。

「人生が夢をつくるのではなく、夢が人生をつくる」先日のWBCで日本中を沸かせてくれた大谷翔平選手の言葉である。つまり「我が夢に夢中になることが、我が人生をつくる」ということである。であれば、来る令和八年度は何が何でも「夢我夢中」であってほしいと願う。そして、そんな夢中になる日々、心を奪われ、目先の心配や不安すら忘れてしまうほどであれば、もはや夢は夢ではなく現実となり人生を彩るであろう。「夢我夢中こそ、我が人生なり」肝に銘じて扉を開け。

■保護者の皆様の温かいご理解とご協力のお陰で、非常に充実した令和7年度を終えることができました。この1年間のお力添えに職員一同心より感謝申し上げます。さて、来る令和8年度は創立10周年を迎えます。この十年の積み重ねをもとに、次の十年に向けてより一層精進して参りますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。一年間誠にありがとうございました。